

令和3年度

安曇野市 協働事業事例集

令和4年3月

安曇野市 市民生活部 地域づくり課

1 協働事業事例集の趣旨・目的

近年、少子高齢化の進展、人口減少等、社会情勢が変化する中で、地域の課題や市民のニーズは多様化・複雑化しています。市民が安全・安心に、心豊かに暮らせる地域づくりを進めていくためには、市民や区など自治会、市民活動団体、企業、教育機関、行政等、特性の異なる主体同士が、お互いの特性の違いを認め合い、対等な関係の中で、それぞれの強みを生かし、弱みを補完し合う「協働」によるまちづくりが求められています。

そのような背景から、安曇野市では、平成26年3月に「安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画」（以下、「協働推進計画」という。）を策定、また、平成29年4月には「安曇野市自治基本条例」の施行、平成31年3月に第2次協働推進計画の策定と、協働を進めるための仕組みづくりに努めており、庁内各部局においては、それぞれ公共サービスの充実や市政の効率化に資する協働事業に積極的に取り組んでいます。

この協働事業事例集では、令和3年度に各部局で協働事業として実施された事業の情報を収集し、掲載しています。「協働」することは目的ではなく、課題解決に向けた手段のひとつです。この事例集が、本市における協働推進の参考となり、それぞれの取り組みがより充実されることを期待して作成するものです。

2 対象とした協働事業

市民と行政がお互いの持つ特性を活かし、不足を補いながら、共に公共サービスの充実や市政の効率化に活かすなどの協働の視点で実施した事業。

(1) 協働の形態

共催、実行委員会、事業協力（協定）

(2) 行政（市）と協働するパートナー

自主的に地域の課題解決に携わる法人、団体等（国、地方公共団体、独立行政法人を除く）

（例）区（自治会）、PTA、企業、学校法人、社会福祉法人、医療法人、商工会議所・商工会
NPO、消防団、農業協同組合等


目次

令和3年度実施個別協働事業(全24事業)

ページ	事業名	協働の相手方	事業担当課	
3	安曇野市男女共同参画フォーラム2021	安曇野市男女共同参画フォーラム実行委員会	人権男女共同参画課	
4	「育メン・家事メン フォト&エピソード大募集!」	安曇野市男女共同参画推進会議		
5	女性に対する暴力をなくす運動	安曇野市男女共同参画推進会議		
6	日本語deスピーチ大会	あづみの国際化ネットワーク		
7	貞享義民記念館展示	安曇野市男女共同参画推進会議		
8	ホンデリングデー	主催:長野犯罪被害者支援センター 共催:松本人権擁護委員協議会安曇野部会、安曇野地区保護司会		
9	安曇野・日本語交流員スキルアップ講座	あづみの国際化ネットワーク		
10	多文化共生意見交換会2021	あづみの国際化ネットワーク		
11	安曇野市自転車での健康づくり実証実験(サイクリングで健康チャレンジ事業)	松本大学		政策経営課
12	光城山1000人SAKURAプロジェクト	光城山1000人SAKURAプロジェクト		地域づくり課
13	アルプス花街道	アルプス花街道実行委員会		
14	アズミノミライcafé 新規	あづみのファシリテーション部!		
15	ゆるくつながって楽しく過ごそう(ゆるつな) 新規	ゆるつな運営チーム	地域づくり課 (市民活動サポートセンター)	
16	あづみの市民活動フェスタ2021	市民活動フェスタ実行チーム		
17	環境ネットワーク展	安曇野環境フェア実行委員会	環境課	
18	「わがまちの空家対策」【明科駅周辺まちあるき空き家・空き店舗見学会】 新規	明科駅周辺まちづくり委員会		
19	「わがまちの空家対策」【安曇野”住まいの終活のススメ”事業】 新規	NEX-T安曇野		
20	里山再生計画推進事業	市民、事業者	耕地林務課	
21	安曇野やさいスイーツプロジェクト	安曇野やさいスイーツプロジェクト	観光交流促進課	
22	信州安曇野田んぼアート	信州安曇野田んぼアート実行委員会		
23	三郷祭(三郷地域市民文化産業展及び菊花展)	三郷地域市民文化産業展実行委員会	生涯学習課	
24	安曇野さんぼ市	安曇野さんぼ市実行委員会	文化課	
25	安曇野市ミュージアム活性化事業	安曇野市内の公立・私立美術館		
26	安曇野文化刊行事業	安曇野文化刊行委員会		

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野市男女共同参画フォーラム 2021	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） ③. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市フォーラム実行委員会	
	市側	総務部 人権男女共同参画課 人権男女共生係（担当）	

フォーラム当日の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	ジェンダー平等はSDGsの一項目になっており、世界の動きは加速している。日本も取り組んでいるものの、動きは鈍い。 国では一昨年12月に第5次男女共同参画基本計画が策定されており、長野県でも昨年6月に第5次男女共同参画計画が策定された。		
事業の目的	誰もが能力を発揮し、活躍できる社会づくり		
成果目標	国や県の現状や計画等を知り、男女共同参画に関心を持ってもらう		
実施場所	市役所4階大会議室	事業期間	令和3年7月17日（土）
事業の概要	長野県男女共同参画センター“あいとぴあ”の男女共同参画基本講座をパブリックビューイングで視聴し、日本の男女共同参画の現状や長野県の第5次男女共同参画計画、男女共同参画の必要性について学ぶ機会を提供する。併せて、「育メン・家事メン フォト&エピソード」の結果についても報告会を行う。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	フォーラムの実施
	相手側	当日の準備、運営
	市側	事務（実行委員会事務局）

【実施結果】

成果目標の達成状況	参加した市民にとって国や県の男女共同参画の現状や計画を学ぶ機会となった
協働による効果	関係団体の意識づくりにつながった
課題・改善点	より参加者の幅を広げるため、内容や周知の方法等を検討する必要がある

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		育メン・家事メン フォト&エピソード大募集！	
協働の形態		①. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市男女共同参画推進会議	
	市側	総務部 人権男女共同参画課 人権男女共生係（担当）	

男女共同参画週間展示

【事業の概要】

取組の背景・課題	家庭への男性参画が進んでいない		
事業の目的	男性の働き方の見直しを進め、仕事と生活の調和（ワークライフバランス）の実現を図る		
成果目標	育児や家事の楽しさを共有する		
実施場所	本庁舎 1F 東ロビー	事業期間	令和3年6月14日(月)～25日(金)
事業の概要	市民の男女共同参画への意識の高めてもらうため、まず身近な男性の家庭参画に目を向けてもらう。本事業へ応募したり、展示した作品を見ることで、育児や家事の楽しさを共有し、男性の家庭参画に対する抵抗を減らす。男性の家庭参画に伴い、ワークライフバランスについても考えてもらう。		

【協働の役割分担】


役割 分担	一緒の取組	展示
	相手側	報告会の実施
	市側	事務（募集、展示準備、報告会準備）

【実施結果】

成果目標の達成状況	写真のほか子育てのコツも併せて展示したことで、参画方法の共有も図れた
協働による効果	男性の家庭参画に関する課題を共有することができた
課題・改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てをサポートする世代の意識変革も必要 ・事業の目的や目標を達成できているか測りづらく、また目的や目標のための事業として適正なのか再検討が必要

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		女性に対する暴力をなくす運動	
協働の形態		①. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市男女共同参画推進会議	
	市側	総務部 人権男女共同参画課 人権男女共生係（担当）	

本庁舎での展示の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	令和2年度から令和4年度の3年間は「性犯罪・性暴力対策の集中強化期間」とされており、11月12日～25日の「女性に対する暴力をなくす運動」期間がある。しかし認知度は低く、関心も高まっていない。		
事業の目的	市民に対して性犯罪・性暴力の防止に関心をもってもらう。		
成果目標	女性に対する暴力をなくす運動を知ってもらい、市民の性犯罪・性暴力の防止に対する意識を高める。		
実施場所	豊科公民館（企業人権啓発講演会） 本庁舎 1階西ロビー 市内図書館	事業期間	令和3年11月10日 令和3年11月11日～26日
事業の概要	女性に対する暴力に関するデータやクイズのパネル掲示、パープル・ライトアップのほか、市内在住アーティストのカミジョウミカ氏にキャラクターデザインを依頼し、啓発グッズ（缶バッジ）を作成した。期間中は市内図書館にて、関連図書の紹介等を行った。またイベントとして、11/10の企業人権啓発講演会会場にて、ライトアップ及び啓発パネルの展示を行った。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	パープル・ライトアップ及びパネル展の片づけ
	相手側	啓発グッズ作成
	市側	事務（事前準備、広報等）

【実施結果】

成果目標の達成状況	「女性に対する暴力をなくす運動」及びパープルリボン運動の認知が広まった
協働による効果	より効果的に啓発を行うことができた
課題・改善点	啓発を継続し、より行動変容につながる内容の検討が必要

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		2021 “世界にやさしい安曇野へ” 日本語 de スピーチ大会	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	あづみの国際化ネットワーク	
	市側	総務部 人権男女共同参画課 人権男女共生係（担当）	

スピーチをした方を表彰

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市には、約 1,200 人の外国籍の方が暮らしている。同じ市民として理解しあうために、外国籍市民の想いを日本語でスピーチしていただき、地域で暮らす外国籍市民への理解を深めるため実施する。		
事業の目的	外国籍市民への理解を促進する。		
成果目標	発表者が見本語で意見を述べるとともに、市民に意見が伝わる。		
実施場所	市役所本庁舎大会議室	事業期間	令和3年8月1日
事業の概要	外国籍市民 11 人が安曇野で暮らして想ったこと等を発表していただく。 （新型コロナウイルス感染症の影響により無観客開催としたが、後日あづみのFMで放送、市HPで音声を公開するとともに市文書館での閲覧対応）		

【協働の役割分担】


役割 分担	一緒の取組	広報（チラシの設置、多文化共生パネル展示の際に併せて周知）
	相手側	発表者の募集、意見文の作成支援
	市側	会場準備、資料準備

【実施結果】

成果目標の達成状況	多様な国籍の市民への理解を深める機会となった。
協働による効果	主体的な役割分担により、事業を効果的に実施できた。また、HPでの音声の公開、文書館でDVDを閲覧できるようにして、広く市民への周知を図った。
課題・改善点	多文化共生について関心が低い層に対し、理解を促進する必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野から考える人権展		
協働の形態		①. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他 ()		
実施団体	相手側	安曇野市男女共同参画推進会議		
	市側	総務部 人権男女共同参画課 人権男女共生係（担当）		

安曇野から考える人権展の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	毎年、12/4～10 は人権週間となっており、12/10 は世界人権デーとなっている。また、人権に関する課題は年々、複雑化・多様化している。		
事業の目的	条例改正及び令和5年度からの新たな計画策定に向け、多文化共生分野や男女共同参画を身近な問題として考える機会とする		
成果目標	安曇野市の現状を知り、多文化共生や男女共同参画に対し関心を持ってもらう		
実施場所	貞享義民記念館	事業期間	令和3年12月7日～24日
事業の概要	人権に関する課題や安曇野市における多文化共生・男女共同参画の現状に関するパネルを展示。併せて、パラリンアートにも作品を登録している安曇野市のアーティスト、カミジヨウミカ氏の絵を展示。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	周知
	相手側	展示作品借用にかかる経費
	市側	事務（展示パネル作成、設営等）

【実施結果】

成果目標の達成状況	安曇野市の多文化共生・男女共同参画の現状を知ってもらう機会の提供ができた
協働による効果	絵を展示し、周知を図ってもらったことにより、より多くの人に見てもらうことができた
課題・改善点	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 身近な題材を取り上げ、より興味を持ってもらえる内容を検討する ▪ 誰もが活躍できる共生社会にするため、各個人の行動変容を促す展示を検討する

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		ホンデリングデー	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	認定特定非営利活動法人 長野犯罪被害者支援センター	
	市側	総務部 人権男女共同参画課 人権男女共生係（担当）	

本等の受付

【事業の概要】

取組の背景・課題	犯罪被害者支援について市民が直接関わり、取り組みを知っていただく機会であり、当市においては3回目の実施である。 また、松本人権擁護委員協議会安曇野部会及び安曇野地区保護司会が市とともに共催となることで広く犯罪被害者支援につなげる。		
事業の目的	継続的な実施により、市民の皆さんへの啓発となることを目指す。		
成果目標	犯罪被害者支援に資すること。		
実施場所	市役所本庁舎東ロビー	事業期間	令和3年12月17日
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・本、CD/DVD、書き損じはがき等の回収。 ・「想いをつなぐ反射材プロジェクト」で製造された反射材の販売。 		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	内容の検討、会場準備及び片付け。
	相手側	集まった本等のとりまとめ、反射材の販売。
	市側	広報誌への掲載、ツイッターの活用などによる市民への周知。

【実施結果】

成果目標の達成状況	本 581 冊、CD101 枚、DVD30 枚、書き損じはがき 124 枚が寄せられた。
協働による効果	市が主体的に広報を行うことで広く市民に周知する。
課題・改善点	ツイッターを見て来庁された方がいたので、SNS をさらに活用したい。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		多文化共生ボランティア「安曇野・日本語交流員」スキルアップ講座	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	あづみの国際化ネットワーク	
	市側	総務部 人権男女共同参画課 人権男女共生係（担当）	

講座の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市には、県下で9番目に多い約1,200人の外国籍市民が暮らしている。外国籍市民が地域に溶け込み、役割を発揮できるよう、支援活動の充実が求められている。これらを実現するため、市内で多文化共生活動等に取り組んでいる市民のスキルアップが必要である。		
事業の目的	外国人にも日本人にも暮らしやすい社会づくりにつながる。外国籍市民の支援を図る。		
成果目標	多文化共生に関する理解、知識の向上を図り、外国籍市民と時間や体験を共有しながら、言葉や生活に慣れる支援を行う。		
実施場所	市役所本庁舎 大会議室	事業期間	令和3年12月12日～12月26日
事業の概要	多文化共生活動に関心があり、安曇野市で活動できる方を対象とした全3回のスキルアップ講座の開催。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	イベントの企画、周知、会場準備及び片付け
	相手側	講座講師への講演依頼、講座資料の作成、広報チラシの作成
	市側	市民への広報、会場確保、資料の印刷

【実施結果】

成果目標の達成状況	コロナ禍においても感染対策を図り、全3回の講座を実施できた。
協働による効果	主体的な役割分担により、事業を効果的に実施することができた。
課題・改善点	今後も新規で多文化共生ボランティア活動をしたい人の養成講座が開催されれば、外国籍市民の支援者の拡大になる。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		多文化共生意見交換会 2021		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	あづみの国際化ネットワーク		
	市側	総務部 人権男女共同参画課 人権男女共生係（担当）		

オンラインによる開催

【事業の概要】

取組の背景・課題	多文化共生に理解のある企業、団体、市議会議員等を招待し、多文化共生についてそれぞれの立場でできることを話し合う。 当初令和3年10月に開催予定であったが、新型コロナ拡大防止の観点から延期し、オンラインでの開催とした。		
事業の目的	様々な立場の方が意見交換や情報共有することで、相互理解を深め、多文化共生活動のさらなる推進を図る。		
成果目標	外国籍市民の支援活動の継続、安心・安全な地域づくりに資すること。		
実施場所	市役所本庁舎 大会議室 (配信会場)	事業期間	令和4年2月4日
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ あづみの国際化ネットワークの活動紹介 ・ 日本語 de スピーチ大会の DVD 視聴 ・ グループに分かれての意見交換 		

【協働の役割分担】


役割 分担	一緒の取組	内容の検討、通知文の作成、会場準備及び片付け
	相手側	司会進行
	市側	教育委員会等への招待、昨年度の意見交換会で出された意見に対する各課の回答 依頼及びとりまとめ、市の外国籍市民の状況に関する資料の提供、Zoom の操作等

【実施結果】

成果目標の達成状況	様々な立場の方が意見を出し合い、理解を深めた。
協働による効果	主体的な役割分担により、事業を効果的に実施できた。
課題・改善点	初のオンライン開催で不慣れな点もあったが、オンラインの活用につなげたい。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野市自転車での健康づくり実証実験 サイクリングで健康チャレンジ事業	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	松本大学	
	市側	政策部政策経営課 企画担当	

松本大学による運動指導の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	自転車活用推進法の施行に伴い、市でも「自転車を活用したまちづくり」の推進に向けて本格的に取り組みを進めることを決定した。その事業の一つとして自転車による健康効果の実証実験を行うもの。		
事業の目的	市民の皆様が自転車を活用したいとする機運を醸成し、将来、自転車を市の新たな文化として定着させるため。		
成果目標	「自転車活用推進計画」の策定・推進の根拠となる知見を得る		
実施場所	堀金総合体育館ほか	事業期間	令和元年度～令和3年度
事業の概要	(1) 小林可奈子氏によるサイクリング指導 (2) 松本大学による運動指導及び栄養指導		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	事業企画・運動指導・栄養指導の運営
	相手側	運動指導・栄養指導・日常的なトレーニングメニューの考案・結果の分析
	市側	サイクリング指導（小林氏に委託）・事務局

【実施結果】

成果目標の達成状況	ほぼ達成した。
協働による効果	自転車を楽しむために必要となる筋力等を向上させる運動指導や栄養指導を担当していただいた。各参加者に適したトレーニングメニューを考案していただいた。
課題・改善点	本事業を通じ、参加者に新たなつながりが生まれ、「みんなでサイクリングを楽しむために」という動機で日常的な筋トレなどに取り組んでいる参加者も見受けられた。本事業は、趣味としての自転車が、健康づくりに必要な運動の習慣化に資する可能性を示唆するものであり、計画策定の根拠になり得ると評価している。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト	
	市側	市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進係（担当）	

プロジェクトメンバーによる植樹の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	観光の名所として知られる光城山の桜は近年老木化が進み、早期の植え替えが望まれていた。そこで、平成 26 年度に光城山の所有者や地元区、NPO と市にて、「光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト」を設立し、市民と市が協働により桜の植栽を進めるとともに、周辺自然環境の保全、地域の歴史・文化の伝承に取り組んでいる。		
事業の目的	桜の老木化が進む光城山に市民により桜を植樹することで、桜の名所としての光城山を守り育てていくとともに、広く市民に対し郷土愛を育む。		
成果目標	市民との協働により、「昇り龍」の維持に向けた桜の植栽と光城山の歴史・文化の発信		
実施場所	光城山一帯	事業期間	令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日
事業の概要	令和 3 年 11 月 6 日（土）に光城山中腹に 20 本の桜を植樹した。また、戦国時代に山城だった光城山の魅力を多くの市民に知っていただく目的で、10 月 5 日（火）と 11 月 13 日（土）に歴史講座を開催した。プロジェクトの目的や光城山を発信する目的で、7 月 25 日（日）と 8 月 1 日（日）に光城山登山口駐車場で地元農家による SAKURA マルシェ in 光城山（軽トラ市）を開催した。		

【協働の役割分担】


役割 分担	一緒の取組	植栽個所の選定（現地踏査）、植栽事業準備作業、植栽事業運営
	相手側	植樹に向けた各種検討、鹿対策防護柵の作成、桜の育成管理 など
	市側	事務局（予算の執行、事業の進捗管理、保険加入、植樹参加者のとりまとめ など）

【実施結果】

成果目標の達成状況	十分に達成できた。
協働による効果	主体的な役割分担により、事業を効果的に実施することができた。
課題・改善点	今後の桜の育成管理、光城山を中心とした里山の保全活動の輪を広げる

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		アルプス花街道事業	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	アルプス花街道実行委員会	
	市側	市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進係	

マリーゴールドの生育状況等の巡視

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野を訪れる皆さんを気持ちよくお迎えしようという機運が長野五輪を機に高まった。潤いのある地域づくりに向けて、市民と行政と一緒に汗を流し、協働によるまちづくりが必要とされている。		
事業の目的	安曇野へ訪れる人々を歓迎するとともに、自然と人にやさしいまちづくりを推進するため、住民の創意工夫による美しい景観の形成を目指す。		
成果目標	マリーゴールドの植栽及び除草等の管理により沿道の景観美化を維持する		
実施場所	市内9か所の沿道（県道柏矢町田沢停車場線ほか）及び市シニアクラブ連合会活動区画	事業期間	令和3年4月1日 ～令和4年3月31日
事業の概要	市内9か所の沿道等でマリーゴールドの植栽及び除草等の管理を行い、景観形成に努める。毎年参加を希望する個人・団体により実行委員会を構成し、それぞれ担当区画を受け持ち、定植・水やり・除草等の管理を行う。一部の区画では、県、団体、市の三者でアダプトシステム協定を締結し、実施している。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒に取組	マリーゴールドの植栽等沿道管理
	相手側	実行委員会の運営、事務局
	市側	委託料の支払、参加団体の取りまとめ、広報、事務局の補佐等

【実施結果】

成果目標の達成状況	67団体（1,127名及び各シニアクラブ会員数）の参加により、沿道の景観美化に努めることができた。
協働による効果	市民と行政が目的を共有し、多くの団体等の主体的な参加により安曇野市の景観形成に取り組むことができた。
課題・改善点	高齢化等により担い手が減少しており、新たな担い手の発掘が課題となる。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		アズミノミライ cafe	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	あづみのファシリテーション部！	
	市側	市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進係（担当）	

ワークショップの様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	行政や市民、様々な主体による「協働」が重要となっているが、現在はそういった取り組みをはぐくむ場が少なく、お互いに腹を割って話せる場所、共に活動する場所が少ない。		
事業の目的	市民自らが地域や自身が抱える課題について目を向け、対話を通じて解決策やその実現に向けて必要なことを考えるといった取り組みを通じ、市民が「協働」を知るきっかけとなり、まちづくりに関わる一歩とする。		
成果目標	子育てをテーマとしたワークショップを開催し、できることを考え実施する。		
実施場所	安曇野市役所	事業期間	令和3年5月～令和4年3月
事業の概要	課題や思いの共有から始め、課題解決には何が必要かを話し合うワークショップを開催。課題を自分事としてとらえ、前向きに考え、実行に移すことを考える。話し合いの場ではファシリテーショングラフィックという手法を活用し、参加者全員が安心して本音で話せる場づくりを行う。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	情報発信
	相手側	ワークショップの場の設定、運営、ファシリテーション 内容のまとめ、ポスターやチラシなどの資料の作成
	市側	必要機材や会場の確保、ホームページへの掲載、チラシ配布、連絡調整

【実施結果】

成果目標の達成状況	子育ての困りごとについて話し合い、困ったときに頼れる支援やサービスを楽しむ学べる「人生ゲーム」のような形でまとめることができた。
協働による効果	協働相手のファシリテーション力を生かしたワークショップにより参加者全員が自分事として課題を考え解決策を考えることができた。
課題・改善点	今回の参加者に限らず、より多くの市民に広げていく方法を模索する。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		ゆるくつながって楽しく過ごそう (通称ゆるつな)	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	ゆるつな運営チーム	
	市側	市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進係（担当）	

本日の話題でゲストが話す様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	市民活動サポートセンターがあるものの、常設で交流できる場が無く、団体同士、団体と市民との交流のきっかけがあまりない。		
事業の目的	市民活動に取り組む方を中心に様々な人が気軽に集まりゆるくつながることで、情報交換や連携のきっかけを育てる。		
成果目標	定期的な交流の場をつくり活動団体同士の連携を生み出す。1回あたりの参加者数30名		
実施場所	安曇野市役所	事業期間	令和3年5月～令和4年3月
事業の概要	市民活動団体同士が交流できる場、市民向けに発信できる場を定期的に設ける。 ① 本日の話題 …ゲストを招き、話題提供してもらう。 ② 持ち込み企画 …市民団体がやりたいワークショップや企画を実現する。 ③ 展示&マルシェ…イベントに合わせ、1週間本庁舎東ロビーで展示をする。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	企画内容検討、当日の運営全般、振り返り
	相手側	参加者呼び込み
	市側	会場確保、必要機材の準備、ホームページへの掲載、チラシ作成・配布

【実施結果】

成果目標の達成状況	新規活動団体が立ち上がる、コラボ企画が立ち上がるなど、新たな活動につながった。1回あたりの平均参加者数は37名で目標を達成できた。
協働による効果	サポートセンター単独では実施できない事業を実施することができた。市民活動を盛り上げるために何かしたいという思いを持つ人が力を発揮する場となった。
課題・改善点	当日運営に関わるために参加した人が多く、純粋に参加した人は回を追うごとに減ってしまった。リピーターが少なく、参加者の幅が広がっていない。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		市民活動フェスタ 2021		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	フェスタ実行チーム		
	市側	市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進係（担当）		

ステージ発表の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	誰もがいきいきと心豊かに暮らすことができる地域共生社会の実現のために、一人ひとりがまちづくりへの関心を高め、まちづくりへ参画することが必要。また、様々な主体が役割と責任を果たしながら力を合わせる”協働”が重要		
事業の目的	広く市民が市民活動や協働のまちづくりについて知り、参加するきっかけとする。市民活動団体等同志の交流を促進し、今後の連携のきっかけとする。		
成果目標	市民活動やまちづくりにあまり関りが無い人も含め、楽しく知り、関わるきっかけとなる。		
実施場所	安曇野市役所	事業期間	11月9日～11月21日
事業の概要	<p>今年度はコロナの感染拡大防止対策として規模を縮小して開催した。</p> <p>①市民活動団体等の紹介パネル等展示 ②ステージでの発表 ③活動PR動画の配信</p>		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	企画内容検討、当日の運営全般、振り返り
	相手側	広報活動
	市側	会場確保、必要機材の準備、ホームページへの掲載、チラシ作成・配布

【実施結果】

成果目標の達成状況	不特定多数を集めて開催するイベントはできなかったが、市民活動団体のPR動画の作成、ステージ発表や展示の配信などオンラインを活用して発信できた。
協働による効果	市民活動を盛り上げるために何かしたいという思いを持つ人が力を発揮する場となった。
課題・改善点	縮小した影響もあり参加者は出演関係者が多く、市民への広がりが限定的であった。市民活動にあまり馴染みがない層が参加したくなる内容とする工夫が必要。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		環境ネットワーク展		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	安曇野環境フェア実行委員会		
	市側	市民生活部 環境課 環境政策係（担当）		

安曇野環境フェア 2018 の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	令和3年10月に開催を予定していた安曇野環境フェア2021が新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために中止となったため、安曇野市内外で環境に関する活動を展開されている方々の活動について紹介し、次年度の安曇野環境フェア開催へとつなぐ巡回展示を実施した。		
事業の目的	安曇野環境基本計画策定を機に、計画推進の第一歩として安曇野市内外で環境に関する活動を展開されている皆さんの活動紹介の場を設けたい。		
成果目標	中止となった安曇野環境フェア2021に替わり、環境活動を行う団体や企業などの活動紹介の場を設け、市内の環境活動や環境フェアについて発信する。		
実施場所	堀金支所 市民活動室 明科支所 1階ホール	事業期間	令和3年11月22日～12月2日 令和3年12月4日～12月17日
事業の概要	令和3年6月24日（木）の第2回実行委員会で安曇野環境フェア2021の中止を決定し、代替案として市内巡回展示を実施することとした。11月22日から12月2日までを堀金支所で、12月4日から同月17日までを明科支所で実施した。なお、堀金支所展示期間中に堀金公民館講堂で環カフェと題して、環境課職員によるSDGsの説明と豊科北小学校の児童による水環境保全活動の発表などを行った。		

【協働の役割分担】


役割 分担	一緒の取組	巡回展示会場準備、展示物の作成
	相手側	巡回展示会場のレイアウト、展示方法、ポスターのデザインなどの検討
	市側	事務局（予算の執行、事業の進捗管理、ポスター原画作者や会場との調整）

【実施結果】

成果目標の達成状況	おおむね達成できた。
協働による効果	明確な役割分担及び相手側の自主的な市民への広報などもあり、代替的な巡回展示とはいえ、効果的に事業実施することができた。
課題・改善点	次年度の例年どおりの環境フェア開催。再び新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった場合は、より積極的に市民と情報を共有できる代替イベントを検討する必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		明科駅周辺まちあるき空き家空き店舗見学会	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	明科駅周辺まちづくり委員会	
	市側	市民生活部 環境課 空家対策室	

（8月まちあるきの物件内覧の様子）

【事業の概要】

取組の背景・課題	<p>近年、空き家が増加し、地域の空洞化進行は深刻である。放置された空き家は、草木繁茂、放火、不法侵入、倒壊など様々な悪影響を周辺に及ぼす可能性がある。</p> <p>一方、空き家を地域の資源と捉え、利活用が進めば、まちなかに賑わいを取り戻す端緒ともなり得ることから、空き家の利活用には注目が集まっている。</p>		
事業の目的	<p>「明科駅周辺まちあるき空き家空き店舗見学会」の開催を通じ、明科地域の空き家空き店舗の利活用を推進し、まちなかに賑わいを取り戻す一助とするとともに、地域の景観及び環境保全につなげる。</p> <p>空き家所有者とのコミュニケーション活動を通じ、所有者の持つ悩みや問題解決を図り、空き家・空き店舗を現在の放置状態から利活用に導く。</p>		
成果目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協働により「明科駅周辺まちあるき空き家空き店舗見学会」を年4回開催 ・ 空き家所有者とのコミュニケーション活動（シンポジウム・相談会）の実施 		
実施場所	明科駅周辺	事業期間	令和3年4月1日～令和4年3月31日
事業の概要	<p>令和3年5月22日（土）、8月28日（土）、11月13日（土）、及び令和4年2月26日（土）の4回にわたり、「明科駅周辺まちあるき空き家空き店舗見学会」を開催し、延べ80名ほどの参加があった。物件は、延べ27件を見学した。</p> <p>また、明科駅周辺まちづくり委員会所属で合同会社うずまき代表の横内氏が運営する「龍門涿てらす」にて、空き家相談コーナーを設け、地域住民が気軽に相談できる場を作った。これらの活動の成果を、令和4年3月12日（土）開催の『安曇野市空き家啓発講演会「わがまちの空き家対策」市民協働事業活動報告会』にて報告した。</p>		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	まちあるき見学会の企画・運営、市民協働事業活動報告会での発表
	相手側	空き家・空き店舗所有者との利活用交渉、空き店舗の見学会ガイドの交渉・共催
	市側	広報による周知、事務局（空き家所有者等の特定・連絡、参加者のとりまとめ）

【実施結果】

成果目標の達成状況	十分に達成できた。
協働による効果	主体的な役割分担により、事業を効果的に実施することができた。
課題・改善点	事業実施団体の活動費予算化の検討、空き家所有者への啓発活動、新規物件発掘やまちあるき範囲の拡大、事業者間のネットワークの構築

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野“住まいの終活のススメ”事業	 <p>(住まいの終活ワークショップでの意見交換の様子)</p>
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力(協定) 3. 実行委員会 4. その他()	
実施団体	相手側	NEX-T 安曇野	
	市側	市民生活部 環境課 空家対策室	

【事業の概要】

取組の背景・課題	空き家は安曇野市においても増加しており、対策が求められているが、空き家問題は法律・相続・登記・税務・建築等の要素に加え、多様な主体がからみ合う複雑な課題である。空き家は放置が進むほど問題が複雑化するため、関係者間で課題を共有し、最も重要な空き家予防・診断に焦点を当て、広く市民に周知し、今後の継続的な活動や活用提案等へとつなげていく必要がある。		
事業の目的	安曇野における空き家の現状と課題を共有し、実地で体験する。この経験をもとに、空き家の予防・診断・活用について、プロセスを分けて見える化し、空き家の予防・診断の重要性について市民に広く周知する。		
成果目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「住まいの終活ワークショップ」の開催 / ・「空き家相談会」の開催 ・「住まいの終活ノート」の作成 / ・シンポジウムの開催 		
実施場所	安曇野市内全域	事業期間	令和3年4月1日～令和4年3月31日
事業の概要	<p>「住まいの終活ワークショップ」を開催し、令和3年5月10日(月)、6月11日(金)、7月9日(金)の3回にわたりワークショップを、5月26日(水)に空家現地視察を実施し、約30人の参加者とともに、所有者・土地・建物・地域の関係と課題を共有し、また実地で体験した。</p> <p>「空き家相談会」を1回開催し、相談者全員の所有物件の現地視察につながった。また、穂高宿の散策と空き家見学を兼ねた「穂高宿まちあるき空き家見学会」を2回開催し、多くの参加者があり地域の関心が高まった。</p> <p>ワークショップ等の内容をまとめ、「住まいの終活ノート」を作成した。今後配布を行い、広く市民に空き家の課題や予防策について啓発を行っていく。</p> <p>これらの活動の成果を、令和4年3月12日(土)開催の『安曇野市空き家啓発講演会「わがまちの空き家対策」市民協働事業活動報告会』にて報告した。</p>		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	住まいの終活ワークショップ・空き家相談会・穂高宿まちあるきの運営、「住まいの終活ノート」作成
	相手側	各種イベントの企画・資料作成、「住まいの終活ノート」原案作成
	市側	広報による周知、事務局(参加者とりまとめ、講師依頼、印刷製本等)

【実施結果】

成果目標の達成状況	十分に達成できた。
協働による効果	主体的な役割分担により、事業を効果的に実施することができた。
課題・改善点	広報やホームページでの情報提供をさらに充実させる、作成した「住まいの終活ノート」を活かした相談会・見学会等の開催

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の 名称	安曇野やさいスイーツプロジェクト		
協働の 形態	1. 共催	2. 事業協力（協定）	
	3. 実行委員会	4. その他（プロジェクト）	
実施 団体	相手 側	安曇野やさいスイーツプロジェクト	
	市側	商工観光部 観光交流促進課 観光交流促進担当	

安曇野やさいスイーツ

【事業の概要】

取組の背景・課題	平成 22 年「安曇野ブランドデザイン会議」の事業として、やさいスイーツの取組がスタートし、会議が解散した後もメンバーが主体となり継続運営。 観光振興、地域ブランドの創出を図る。		
事業の目的	安曇野発の新たな食の魅力の発信をすること		
成果目標	安曇野やさいスイーツフェアの実施		
実施場所	市内	事業期間	4/1～3/31
事業の概要	安曇野市内の菓子店やホテルでつくる「安曇野やさいスイーツプロジェクト」。第 12 回となる令和 3 年度は 10 月 2 日～10 月 31 日の期間、インターネット投票により市民の皆様を選んでいただいた「安曇野産スイートコーン」をテーマに開催。期間中はシールラリーも開催し、複数のお店を回った方へは抽選でやさいスイーツ商品券をプレゼントする取り組みも行った。		

【協働の役割分担】


役割 分担	一緒の取組	事業全般
	相手側	事業の企画・運営・会計
	市側	資料作成・広報

【実施結果】

成果目標の達成状況	活動を通じて多くの方に安曇野やさいスイーツの魅力を発信できた
協働による効果	活動また事務作業の役割分担における効率化
課題・改善点	PR 活動の強化

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		信州安曇野田んぼアート 2021	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	信州安曇野田んぼアート実行委員会	
	市側	商工観光部 観光交流促進課 観光交流促進担当	

信州安曇野田んぼアート 2021 テーマは「御嶽海関」

【事業の概要】

取組の背景・課題	1日だけのイベントではなく長期開催の新たな観光イベントを、と2019年に初開催。今回2度目の開催となった。初年度終了後、次のテーマの決定やPR方法のアイデア、役割の見直し、コロナ禍開催の課題など実行委員会内で意見を出し合い準備した。		
事業の目的	水田をキャンパスに見立て色の違う稲で巨大な絵を描くアートイベント「田んぼアート」を活用して、「信州 安曇野」の魅力を広く全国に発信する。		
成果目標	コロナ禍でも楽しめるイベントとして安全安心を第一に、テーマ・制作・誘客を通じて一体感を持てる催しとする。		
実施場所	安曇野スイス村周辺	事業期間	令和3年4月1日～令和4年3月31日
事業の概要	長野県出身の大相撲力士「御嶽海関」をテーマに開催。6月1日～16日、アート制作作業。測量、手植え、機械植え、杭抜き等、延べ500人程が参加。また日常の稲や水の管理、除草作業などにも地元農家など多くの方に協力いただいた。全国広範囲で緊急事態宣言等の発令もあり難境ではあったが、県内を中心に誘客活動を行い、6月19日～10月3日、107日間の展望台開場期間中に37,689人の来場があった。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	各種広報、誘客促進活動、展望台運営
	相手側	アート制作、アート用地管理、協賛金募集
	市側	各種申請、関係機関連絡、会場設営、庶務

【実施結果】

成果目標の達成状況	安全対策を十分に行い、コロナ禍の数少ない観光イベントの一つとして来場者を楽しんでいただけた。「大相撲」「長野県」というキーワードからも各方面で一体感が醸成され、アート制作中から展望台開場期間、そして終了後にも話題が提供できた。
協働による効果	それぞれ役割を把握して活動することができ、イベントの成功につながった。
課題・改善点	実働しやすい組織体系にすることが課題。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		三郷祭 (三郷地域市民文化産業展及び菊花展)	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力 (協定) 3. 実行委員会 4. その他 ()	
実施団体	相手側	三郷地域市民文化産業展実行委員会	
	市側	教育 部 生涯学習 課 三郷生涯学習 係 (担当)	

会場風景 (上) 文化産業展・(下) 菊花展

【事業の概要】

取組の背景・課題	<p>昭和 33 年から運動・文化等を通じた地域振興と市民相互の交流を目的に開催されてきた三郷祭の一環事業である。</p> <p>市民による実行委員会を構成し開催した。行政である三郷公民館は事務局として運営事務と調整を行った。</p> <p>コロナ禍で落ち込んだ出展数の増加や「産業」分野の出展 (出店) が課題。</p>		
事業の目的	三郷地域の市民による文化等を通じた地域振興・市民相互の交流を目的とする。		
成果目標	より多くの市民に文化芸術活動の展示発表と市民間の理解を図り、地域振興と交流を図る。		
実施場所	三郷公民館	事業期間	令和 4 年 11 月 6 日～11 月 7 日 菊花展は 11 月 1 日～11 月 8 日
事業の概要	<p>令和 3 年 6 月 11 日 (金) 三郷祭運営委員会及び同 9 月 22 日 (金) 実行委員会を行い、事業計画を練る一方広く地域からの出展を募った。当初予定していた 10 月下旬は選挙の日程により、11 月初旬に変更となったが、文化産業展・菊花展の開催時期が重なったことで来場者数の相乗効果がみられた。11 月 26 日 (金) 運営委員会を実施。反省と来年度取り組み内容の共有を図った。</p>		

【協働の役割分担】


役割 分担	一緒の取組	事前事後の会議・展示準備・運営・片付け
	相手側	事業内容・手段の検討。当日会場の監視
	市側	事務・調整

【実施結果】

成果目標の達成状況	ほぼ達成した。
協働による効果	役割分担を明確にすることで、双方を補い、事業を効果的に実施できた。
課題・改善点	出展数・来場者の増加、「産業」分野の出展 (出店) を図る。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野さんぽ市 2021		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	安曇野さんぽ市実行委員会		
	市側	教育部 文化課 文化振興担当		

エントランスホールでの出店の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	地域で活動するものづくり作家（アマチュアも含む）と使い手側の市民とが直接顔を合わせ、交流する機会を創出することを目的とした事業。		
事業の目的	地域に根付いた活動をするものづくり作家と、使い手側とが交流できる場を作る。また、会場である穂高交流学习センターを多くの市民に利用してもらい、交流の場としての役割を果たす。		
成果目標	人の出会いや交流の創出、それらの場としての施設の定着。		
実施場所	安曇野市交流学习センター「みらい」	事業期間	令和3年10月9日～10月10日
事業の概要	安曇野市を中心に活動するものづくり作家や職人たちが出展者となり、手作り品の展示・販売・ワークショップを行う。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	運営、来場者受付、イベント告知、新型コロナウイルス感染症対策
	相手側	事務局（参加者募集、問い合わせ対応、支出管理）、ブース配置決め など
	市側	施設の貸出し、敷地内の管理 など

【実施結果】

成果目標の達成状況	例年より小規模での開催となったが、ものづくり作家や職人たちと市民が交流する場や機会をつくり出すことができた。
協働による効果	市民と行政が連携することで、交流の場の創出と新型コロナウイルス感染予防対策を両立し事業を実施することができた。
課題・改善点	<ul style="list-style-type: none"> 出展者に注意事項や貸出を行う物品、ブースの位置等を事前に確認するよう呼びかけを行い、イベント開催当日に不備や混乱がないよう努める。 休憩場所や通路を十分確保できるよう、出展ブースの場所や広さを検討する。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野市ミュージアム活性化事業		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	安曇野市ミュージアム活性化事業 実行委員会		
	市側	教育部 文化課 文化振興担当		

あづみの学校ミュージアムの様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	市内にある公立館と私立館が、集客力をあげ、学校との連携を強化する。また、職員同士の資質向上を目指したい。		
事業の目的	市内に点在する美術館・博物館が連携して事業を行うことで、地域文化振興の核としての役割を果たし、安曇野市の一体感の醸成に寄与すること。		
成果目標	今年度計画した7つの事業の実施		
実施場所	市内各館	事業期間	R3年4月1日～R4年3月31日
事業の概要	(1) オンラインギャラリートーク (2) 安曇野ミュージアムギャラリートークリレー2021 (3) あづみの学校ミュージアム事業 (4) 出前ワークショップ事業 (5) 美術館博物館職員等研修会事業 (6) 信州大学連携 (7) ミュージアムサポーター		

【協働の役割分担】

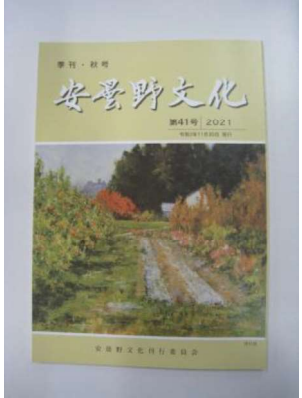
役割 分担	一緒の取組	実行委員会、専門部会
	相手側	実行委員会、専門部会
	市側	事務局、専門部会

【実施結果】

成果目標の達成状況	実施済み。（「出前ワークショップ」の一部は感染症の影響により中止）
協働による効果	公私館の共通課題を解決し、新しい考え方を導ける。
課題・改善点	協働して行うことによって、各館への還元を図りたい。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野文化刊行事業		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（刊行委員会）		
実施団体	相手側	安曇野文化刊行委員会		
	市側	教育部 文化課 文化振興担当		

安曇野文化第 21 号表紙

【事業の概要】

取組の背景・課題	<p>刊行の経過</p> <p>三郷地域において刊行されていた「三郷文化」が平成 23 年夏号をもって創刊 30 年を迎えるにあたり、区切りをつけ、以降「安曇野文化」として刊行することを検討し、平成 23 年 5 月に安曇野文化刊行委員会が発足した。</p> <p>平成 23 年秋からの「安曇野文化」創刊に向けて「安曇野文化」編集委員会を組織し、平成 23 年 11 月 30 日に創刊号を発行した。</p> <p>購読者は数を増やすことが目下の課題であり、さらに PR に力を入れる必要性が感じられる。</p>										
事業の目的	<p>安曇野の恵まれた文化を広く見つけ、ふるさとの自然と歴史、文芸、教育、産業、生活等の万般の文化に更に光を当て、広く市民に享受していただくと共に、地域文化を創造し大切にすることによって、地域の活性化と一層の安曇野市の文化の発展を期待することを目的に季刊誌「安曇野文化」をつくる。</p>										
成果目標	<p>購読者数は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三郷文化最終号…約 460 名 ・安曇野文化創刊号…約 500 名（平成 23 年 12 月 9 日現在） <p>となっており、令和 4 年 1 月現在で 457 名である。購読者数を 500 名まで増やしたい。</p>										
実施場所		事業期間	～								
事業の概要	<p>安曇野文化」発刊</p> <table border="0"> <tr> <td>第 39 号（春号）</td> <td>令和 3 年 5 月末</td> </tr> <tr> <td>第 40 号（夏号）</td> <td>令和 3 年 8 月末</td> </tr> <tr> <td>第 41 号（秋号）</td> <td>令和 3 年 11 月末</td> </tr> <tr> <td>第 42 号（冬号）</td> <td>令和 4 年 2 月末（予定）</td> </tr> </table> <p>刊行委員会は年度当初に開催し、年 4 回の発行に合わせて編集委員会を開催する。</p>			第 39 号（春号）	令和 3 年 5 月末	第 40 号（夏号）	令和 3 年 8 月末	第 41 号（秋号）	令和 3 年 11 月末	第 42 号（冬号）	令和 4 年 2 月末（予定）
第 39 号（春号）	令和 3 年 5 月末										
第 40 号（夏号）	令和 3 年 8 月末										
第 41 号（秋号）	令和 3 年 11 月末										
第 42 号（冬号）	令和 4 年 2 月末（予定）										

	編集委員会は執筆者の選定からはじまり各号を購読者に届けるまでの実務を行う。購読料と安曇野市からの補助金により事業を行う。
--	--

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 刊行委員会、編集委員会の開催 ▪ 購読者数増に向けての取り組み
	相手側	▪ 各号の原稿依頼と収集、編集作業、発行、配布
	市側	▪ 事務局を担当

【実施結果】

成果目標の達成状況	新規の購読者も獲得しているが、従前の購読者の高齢化により購読停止とほぼ同数であり、全体としての購読者数はほぼ横這い状態である。地元書店などで販売しているが、さらなる販路拡大が必要。
協働による効果	三郷地区に限定されていた内容が市全域を扱うようになり、編集委員、執筆者とも市全域から募り、それぞれの地区で活動いただいている。 委員の活動により購読者が市内全域に広がり、市内外の方々に、安曇野について広く知っていただくことに繋がった。
課題・改善点	購読者増

発行日：令和4年3月

編集・発行：安曇野市役所 市民生活部 地域づくり課
まちづくり推進係（本庁舎2階4番窓口）

住所：〒399-8281 安曇野市豊科 6000 番地

電話：0263-71-2494（直通） FAX：0263-72-3176